

ハチ博士の ミツバチコラム

12



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

菩提樹の蜜は

シナノキの蜜！

お釈迦様は菩提樹の下で悟りを開いたとされており、お寺の境内には菩提樹がよく植えられています。初夏になると淡黄色の小さい花が沢山咲き、甘い香りと良質の蜜でミツバチ達をとりこにします。

菩提樹の蜜は透明で、香りが良く、日本人が大好きな蜜です。お釈迦様の悟りにはこの花の香りと蜜が大いに関係したのではないかと、思われるのも無理はありません。

しかし、日本の菩提樹には秘密があります。お釈迦様が

悟りを開いたのはクワ科のインドボダイジュの下でのこと。仏教が中国に伝来した時に中国では熱帯産のインドボダイジュが育たないため、姿が似ているシナノキ科の別物を菩提樹と呼んだと言われています。日本へは臨済宗の開祖栄西が持ち帰ったと伝えられています。日本にも中国シナノキに似たシナノキがあり、ミツバチが好むこの木を菩提樹と呼ぶようになったのです。

残念ながらインドボダイジュは蜜源植物ではないようです。蜜源として

重要なシナノキが代用品になって仏教上の聖木の名前がつけられたのは、個人的には良かったと思います。シナノキは日本全国に分布していますが、蜂蜜としては北海道や東北のシナノキの単花蜜が有名です。一度、是非味わってみて下さい。好きになること、掛け合いです。



イラスト おおくぼひとみさん